

【東京都男女平等参画推進総合計画の改定の方角性に向けた視点】

- 現行計画における項目や施策について、特に男女平等参画の観点から盛り込むべきものを検討し、他の制度や計画との役割分担をする（必要に応じて関連として記載）
- 女性活躍基本条例（仮称）の制定に向けた検討のなかで、職業生活の場での女性活躍が推進が議論される。一方で、職業生活の場以外でも、男女ともに自分らしく望んだ生活を送れるという視点が必要
- 都庁内での組織横断的な連携を生かした施策を進めるための視点（例 スポーツ）
- 都の施策を都民に浸透する方法の一つとして、計画改定の過程を周知し、意見聴取や普及啓発していく（ワークショップ、イベントアンケートなどの活用）

（主な意見）

- ・ 総合計画の改定にあたっては、男女平等参画基本条例とは別の条例・別の計画の枠組との関係は整理すべき。総合的なものと個別分野的なものがあるとすれば、総合的な枠組の中で、この問題については特にこの条例・計画・制度で取扱う等明記し、すり合わせをする必要がある。
- ・ 総合計画の方角性としては、都が行う施策を通貫して、男女平等の視点が浸透しているかが大事。都が所管する全ての分野又は全組織に関わる施策について、男女差が見られるところがあれば、その要因分析も含めて、見落とし・重複がないのか、又は男女平等の視点はこの分野では達成できているから、計画には掲載しない等まで検討する必要がある。掲載すべき項目も、迂遠的に男女平等を実現しているという関係ではなく、男女平等の視点がどこまでつながっているのかという見極めが必要
- ・ 女性活躍基本条例（仮称）との関係には留意しつつ、漏らすことなく盛り込んでいく必要
- ・ 目標の達成状況への評価方法等に留意しつつ、成果のアピールについても考えていく必要

(主な意見) 続き

- ・地域活動やボランティアに関しては、現行計画ではマインドチェンジの箇所で扱われているが、今議論しているなかでは、ライフステージの箇所で扱うものになると思う。また、扱う際には、感覚的なものだけではなく、統計的なデータに基づき対応策を検討すべき。それが難しければ、まず問題がある慣行について発信し、現状を変えるきっかけとすることも一つ前進といえる。
- ・健康問題については、統計的な裏付けに基づいて進めていくべき
- ・総合計画としては、あらゆる領域で男女平等の観点から施策を進めていくべきだが、すべてを一度に行うことは難しい。例に挙げられたように、スポーツの領域など、まずいくつかの領域から連携して取組を進めていくことが大事
- ・健康問題については、職業生活の両立との観点からのみ捉えられる傾向があるが、統計的な裏付けや構造的な影響など、しっかり把握しながら進めていく必要がある
- ・現行計画の第3章で様々な属性をもって取り上げられるところでは、男女平等参画の視点から改めて洗い出し、点検していくことが大事
- ・国は第6次計画でジェンダー主流化を掲げているので、都でもそのような視点で取り組んでいくことを位置付ける必要がある。
- ・若者に対して施策等を知ってもらうだけではなく、一緒に作っていくことが必要。大人に限らず、全ての人がパブリックコメントを理解しているわけではないので、情報保障の観点からも一緒に考える機会を作ることが必要ではないか。
- ・審議会のような形とはまた別に、若者だけで作る会議体・グループを立ち上げ、若者たちが都内をめぐりワークショップをするなど、地域も巻き込んだような形でやっていくとよいのではないか。
- ・子供、若者関連の部署とも連携して様々な取組を進めてほしい。

(主な意見) 続き

- ・ 色々な層によって関心のあるテーマが異なるので、それぞれのテーマがどのようにジェンダーに結びついているか整理し、ワークショップをやってみる。そのなかで、日ごろの生活とジェンダー課題について考えてもらい、都の施策の紹介などもできると課題の掘り起こしと施策の浸透の両方できるのではないかな。
- ・ ジェンダーというと自身と遠いテーマを設定しがちなもので、身近なところにある問題を考えてもらうことが必要ではないかな。
- ・ 東京都はこども基本条例を制定したこともあるので、その関係部門と連携して施策を進めてほしい。世田谷区では、子どもの権利条例ができ、自分たちで課題を動きながらみつけるようなユースカウンスルというものが立ち上がっている。そういったものと連携していくことを考えるいいタイミングだと思う。
- ・ 地域社会の中では、置いていかれている若者もいるので、そういった人たちと一緒にテーマ出しからやってみるというののもよいのではないかな。その場合、防災の視点などもいいと思う。
- ・ 職業生活の場以外で望んだ生活というのは、なかなか難しく、まずニーズをつかんでいく必要がある。一概に率を平等にすることがよいのかは議論があるところ。若者の意見を聞く仕組みについて意見があったように、ニーズをつかんでいけるような仕組みづくりはとても大切なこと
- ・ 希望する人たちができているのか、機会が平等に与えられているかは重要な視点
- ・ 普段から意見を聞くような仕組み、気軽に意見を送れる場所・仕組みをつくっていくことが重要。また、全てを叶えられないにしても、意見に対する丁寧なフィードバックも必要。
- ・ 都の公式サイトとは別に、東京都の男女平等参画に関する特設サイトのようなものがあり、そこに相談や施策などを含めた情報が集約されているようなものがあるとよい。
- ・ 意見を吸い上げて反映していくという観点からは、意見等がどのように取り上げられ施策に生かされているかわかりやすくなっているとよい。

(主な意見) 続き

- ・ 困難な状況にはないような、いわゆる普通の人ジェンダー意識に課題があるように感じているが、そういったものはこれまであまり取り上げられてこなかったようにも思う。日常のなかにある、身近なところからのジェンダーの視点が重要ではないか。

【第1回部会での議論等を踏まえた論点】

② ライフステージを通じて、誰もが持てる力を存分に発揮できる環境を実現

(主な意見)

- ・誰もが持てる力を十分に発揮できる状態について語りあえるとよいと思う。ごく一部の人ではなく、多くの人があるような状態ではない。みんなで自分なりの環境が問い続けられ、誰かと語りあえるような場が必要
- ・健康というのは全ての人にとって重要なもので、何かと両立したりするためのものではないと思う。困難な状況にある方の健康こそ考えていったりするような視点もほしい。
- ・健康が両立の観点からのみ語れるのは問題があり、女性のほうのみ注目されてしまうことも課題。あくまで男女、性差に基づく視点が大事。でないと、女性に注目されているうちに、女性がコスト人材であるかのような話になってしまう。
- ・考え方の一つとして、健康であることが様々な社会活動のベースとなる、つまり不健康であるとその人の人生に制約が出てくることがある。重要なリソースとして健康状態があると捉え、取り組んでいくことは総合計画として重要。一方で、このような考え方と近年の女性の健康支援についてはややギャップがあると感じる。前者は、女性に限定される話ではなく、後者は、特定の病気への性差や女性性にまつわる病気など、これら二つは区別して論じる必要がある。こういった分野は専門家による知見が必要
- ・大きな枠組みでの健康を考えるにあたって、一つのアイディアとして生活時間を考えていくことがある。有限である時間というリソースをどのように配分していくか。このような考え方を導入すると、家事育児の性別役割分担意識、スポーツのニーズの有無とそれが可能かどうかといった点など、理解がしやすくなるのではない。

(主な意見) 続き

- ・スポーツだけの話ではないかもしれないが、このスポーツをやっていると社会的に有利にみられるような、イメージなどがあると思う。特に男性は接待ゴルフなど、そのようなことがあるように見え、一方で女性はそれに捉われずに済んでいるようにも思う。これもバイアスかもしれないが、ウェルビーイングといった話とも関連すると思われ、本当に健康になっているのならよいかもしれないが、お金や道具が必要となったり、それらを持たない人たちが入れない社会が形成されてしまい、そこで何かが決定されていってしまう。このような再生産がみられるように思う。
- ・心身の健康の維持のために運動が重要。運動について男女間に統計的な差あり、女性が運動しにくいような状態にあるのであれば、支援をしていくことはよいのではないか。
- ・健康といえば、女性特有の健康問題の話になるが、改めて考えてみると、健康は幅広いもので、男性でも様々な疾患のリスクがあるので、もう少しフラットに捉えてもよいのではないか。
- ・アンケートの結果では、男性の定期的な運動率は高いことはあるとしても、女性は健康の維持のために運動以外のことをやっている。健康の維持のためには様々な方法があるので、運動のみではなく、多様な方法を考えて、バランスをとっていく必要がある。
- ・男性についてあまり視点を当てられていないことで気づかれていないことも多いのではないか。男女両方の視点で見ていくことが大事
- ・健康をとりあげるのであれば、医療行政とジェンダーといった点で、需要と供給側双方の視点から見ていくことが大事ではないか
- ・地域における固定的性別役割分業が注目されており、地方創生の観点から選ばれる地域といった話もあるが、幅広い意味での地域での固定的性別役割分業解消が重要。地域の様々な団体や会合に対する教育研修機会があるとよいのではないか。

(主な意見) 続き

- ・例えば、町内会に入ってもらえないといった話もあるところなので、ジェンダーの観点というより、担い手不足の観点からもあり方を見直していく必要があるのではないか。
- ・地域の中でD & Iを考えていくにあたって、みんなで一緒に暮らしていく、生きていく、働いていくための多様性を認めるという視点が大事
- ・地方創生のなかで、若い女性・若者が地方から流出して東京に集まってきているといわれているが、流出していった人を地方で調べることは困難なので、東京都がそのような人たちを調べてジェンダーの視点から分析していくと、都も、他の地方も助かるのではないか。
- ・一極集中といった議論の中で、都とそれ以外の地方ということだけではなく、都内においても、区市町村による格差があるのではないか。

【第1回部会での議論等を踏まえた論点】

○ 男女共同参画センターについて

(主な意見)

- ・地域で異なっている現状に対してアプローチしていくことがだと思うので、都の総合的なセンターの役割として、人員・予算的な補助など支援をしていく必要がある。また、国の機関や施策等と都民との橋渡し役も求められるのではないか。
- ・受けた相談を様々な機関にスムーズにつないでいくため、しっかりと協働体制をとり、細かい調整を行うことで本当のワンストップ機能をもった相談機関になれるとよい。
- ・相談の内容をしっかりと分析し、施策に反映していくことが大事
- ・フォーラムが日常になるような、様々な団体の活動の場であり、誰かとつながれるような居場所・活動場所であればいいと思う。館として待っているだけではなく、働きかける、見える化することも大事
- ・男女共同参画センターという名前というだけでもよくわからないところがあるのに、ウィメンズと名前が入っていると、女性限定の施設であるかのように見えるので、名称の変更を検討してほしい。
- ・定期的に話す場であったり活動する場としての機能を充実させてほしい。色々相談ができるユースセンター的な機能もあるとよい
- ・立地がいいところもあるので、施設利用についてもっと啓発が必要ではないか
- ・ウィメンズプラザをどうしていくか検討する会議体みたいなものを立ち上げてほしいのではないか
- ・幅広く、ライトな層にも関わってもらって、センターの活動もサポートしてもらい、周知してもらいようなことができるとうい

(主な意見) 続き

- ・働く人たちにとっても頼れる場であることを広げていったり、中高生や中高の先生向けの探究学習のためのイベントをやって、ジェンダーで問いをたてるようなワークショップをやるといったことも需要があるのではないかな
- ・今日の意見は幅広く出たので、今回の計画改定に反映できるもの、今後施策の運営に反映できるものと、中長期的にさらに次の計画改定に向けた準備に使えるものといろいろあると思うので、そういった形で取り入れていただきたい。